

Title	青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業に関する考古学的研究
Sub Title	The archaeological study about location and subsistence of paleolithic sites in the Shimokita Peninsula.
Author	渡辺, 丈彦(Watanabe, Takehiko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2024
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、津軽海峡南岸域「下北半島東北端」を研究対象に、旧石器時代における異なる生業活動の場としての「開地遺跡」と「洞穴遺跡」を発掘調査し、出土遺物の比較研究をおこなうことで、同時期の北海道から本州島への人類(文化)の流入の在り方を具体的に示すことにある。本年度、洞穴遺跡については、過去に発掘調査した尻労安部洞窟の部分的補足調査をおこなうとともに、新規に発見した岩陰遺跡の試掘調査などをおこなった。開地遺跡については、尻労安部洞窟周囲に良好な遺跡の所在を確認しているが、防衛庁敷地内にあるため調査は困難であり、その許諾をえるための準備行動に留めた。また個人蔵の下北半島地域先史時代遺跡関連資料の実見調査もおこなった。 洞穴遺跡・岩陰遺跡の調査で得られた考古遺物については、研究室内で洗浄等をおこなった後に、予備的な理化学分析も実施した。加えて、調査期間の荒天により、試掘調査範囲が不十分なものとなったため、次年度は、試掘調査範囲を広げ、その結果をもとに本格的発掘調査を実施する予定である。 なお、今年度調査・研究の一部は、あおもり発掘フェア2023(旧 青森県埋蔵文化財発掘調査報告会)において「尻労安部洞窟(安部遺跡) - 北の石灰岩洞窟に旧石器人骨を追う - 」として、第37回東北日本の旧石器文化を語る会(青森大会)においては「尻労安部洞窟発掘調査・研究の成果と意義」として口頭発表をおこなった。 This study is intended to clarify inflow processes of the palaeolithic culture from Hokkaido to Honshu Island. This year, we conducted supplementary excavations of the Shitsukari-Abe Cave, as well as trial excavations of newly discovered rock shelter site. In addition, the archaeological artifact obtained during the survey were cleaned in the laboratory and then preliminary analysis was conducted. Next year, we plan to conduct a full-scale excavation based on the results of the test pit survey. Some of the research results have been presented orally at two academic conferences.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2023000010-20230219

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023年度 学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200千円 (B)
	氏名	渡辺 丈彦	氏名(英語)	Takehiko WATANABE		
研究課題(日本語)						
青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業に関する考古学的研究						
研究課題(英訳)						
The archaeological study about location and subsistence of paleolithic sites in the Siomokita Peninsura.						
1. 研究成果実績の概要						
本研究の目的は、津軽海峡南岸域「下北半島東北端」を研究対象に、旧石器時代における異なる生業活動の場としての「開地遺跡」と「洞穴遺跡」を発掘調査し、出土遺物の比較研究をおこなうことで、同時期の北海道から本州島への人類(文化)の流入の在り方を具体的に示すことにある。本年度、洞穴遺跡については、過去に発掘調査した尻労安部洞窟の部分的補足調査をおこなうとともに、新規に発見した岩陰遺跡の試掘調査などをおこなった。開地遺跡については、尻労安部洞窟周囲に良好な遺跡の所在を確認しているが、防衛庁敷地内にあるため調査は困難であり、その許諾をえるための準備行動に留めた。また個人蔵の下北半島地域先史時代遺跡関連資料の実見調査もおこなった。 洞穴遺跡・岩陰遺跡の調査で得られた考古遺物については、研究室で洗浄等をおこなった後に、予備的な理化学分析も実施した。加えて、調査期間の荒天により、試掘調査範囲が不十分なものとなったため、次年度は、試掘調査範囲を広げ、その結果をもとに本格的発掘調査を実施する予定である。 なお、今年度調査・研究の一部は、あおり発掘フェア2023(旧 青森県埋蔵文化財発掘調査報告会)において「尻労安部洞窟(安部遺跡)ー北の石灰岩洞窟に旧石器人骨を追うー」として、第37回東北日本の旧石器文化を語る会(青森大会)においては「尻労安部洞窟発掘調査・研究の成果と意義」として口頭発表をおこなった。						
2. 研究成果実績の概要(英訳)						
This study is intended to clarify inflow processes of the palaeolithic culture from Hokkaido to Honshu Island. This year, we conducted supplementary excavations of the Shitsukari-Abe Cave, as well as trial excavations of newly discovered rock shelter site. In addition, the archaeological artifact obtained during the survey were cleaned in the laboratory and then preliminary analysis was conducted. Next year, we plan to conduct a full-scale excavation based on the results of the test pit survey. Some of the research results have been presented orally at two academic conferences.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
渡辺丈彦	尻労安部洞窟発掘調査・研究の成果と意義	第37回東北日本の旧石器文化を語る会青森大会	2023年12月			
岩浪雛子・畑中乃咲佳・山口舞桜・中村謙伸・鈴木伸太郎・佐藤巧庸・平澤悠・深澤真楠・辰巳晃司・渡辺丈彦・鈴木敏彦・安達登・佐藤孝雄・奈良貴史	尻労安部洞窟(安部遺跡)ー北の石灰岩洞窟に旧石器人骨を追うー	あおり発掘フェア2023	2023年12月			